

金沢市味噌蔵地区社会福祉協議会

地域と特別支援学校の交流

団体の紹介

味噌蔵地区は金沢市の中心部、旧味噌蔵町小学校校下にある42の町会で構成されています。校区内には、金沢城や兼六園、金沢大学附属特別支援学校などがあり、約3,500世帯、6,600人が生活しています。味噌蔵地区社会福祉協議会は、第三善隣館福祉センターを活動の拠点に、金沢大学附属特別支援学校の生徒との交流活動をはじめ、フードパントリー、高齢者向けサロン、子育てサロンなど、福祉活動に力を入れています。コロナ禍でも、「活動拠点の灯を消さない」ことを心に刻み、地域住民が参加・協力して活動しています。

事務局所在地 金沢市小將町8-23 第三善隣館 福祉センター2階

活動内容

地区の福祉バザーでの交流



平成29年に地区の福祉バザーを金沢大学附属特別支援学校の体育館で開催したことをきっかけに、バザーを通して、高等部の生徒と住民が交流しています。打ち合わせの段階から生徒も参加し、準備、バザー当日、反省会まで住民とともに活動しています。生徒たちは、椅子やテーブルをセッティングしたり、自分たちが授業で作ったクッキーやコーヒーを販売したり、バザーの商品を住民と一緒に販売したりしています。住民から生徒(知的障害)への配慮、生徒から高齢住民への配慮(重い物

を持つなど)、若者が交ざることによる活性化など、お互いに支え合う環境となっており、活動後は住民から、「生徒への理解が深まった」「認識を改めた」「まじめに行動する重要性を学んだ」「今後も交流を増やしたい」という前向きな感想が集まっています。

その他の交流

防災研修や新年会など学校の行事に地域住民も参加し、交流を深めています。防災研修では生徒と住民が協力してテントを立てたり、調理をしたり、新年会では、一緒に餅つきなどを楽しんでいます。また、生徒たちは、学校で練習した掃除やワックスがけ等の技術を実践する場として、地域の建物の清掃を行っており、地域住民と生徒の共生が進んでいます。



広域地図



詳細

